

東海道五拾参次

橋 本 たねひろ

38、岡崎一矢矧（矢作・やはぎ）乃橋 三河国・愛知県岡崎市

東海道最長の橋が、矢作川に架かる長さ208間（約378m）、幅4間（約7m）の矢矧橋で、絵は西国から江戸に向かう大名行列が渡っているところです。河原は葦や雑草が生い茂っていますが、渡った先が藤川から6.7kmの岡崎宿、岡崎城と城下町が見えます。

岡崎城は、徳川家康が生まれ、今川氏の人質から脱した後の20年間を過ごした城で、遠景に甲山と村積山が見えています。

子供の頃の日吉丸（後の豊臣秀吉）が夜盗蜂須賀小六と会ったという伝説を持つ橋としても有名ですが、当時この橋はありませんでした。



39、池鯉鮒（ちりふ）一首夏馬市 三河国・愛知県知立市

池鯉鮒宿の手前の草原では、毎年4月25日から5月5日までの10日間、馬市が開かれ、遠く信濃や甲斐などからも人が集まりました。初夏のさわやかな草原に様々な様子の馬が描かれ、馬喰（ばくろう）が客待ち顔で、松の木の下から来る一団は買い付けの商人らでしょう。4～500頭の馬が売買されるため人出を当て込んだ商人が食べ物、大道芸、賭場など野天の店を開きましたが、買い付けの一団の前で迎える天秤棒の人は何かを売る商売人でしょうか。この草原を過ぎると岡崎から15kmの池鯉鮒宿で、三河国最後の宿場です。



40、鳴海一名物有松紋（ありまつしぼり） 尾張国・愛知県名古屋市緑区

池鯉鮒から約3.9km、間の宿（あいのみやう、宿泊できない決まりがあった）有松があり、鳴海付近で生産された木綿を絞り染めた反物が名産品「有松紋」で、尾張藩も殖産奨励、保護し、今は国の伝統的工芸品に指定されています。

池鯉鮒から11.1kmの鳴海宿ではその有松紋を土産物としたので鳴海紋とも言われました。

店頭に手拭い、浴衣、帯などをつるして通行人にアピールし、旅の女性が笠を揚げて眺めています。駕籠や馬の旅人は関心なさそうで、夕暮れの街道を疲れた足取りで進んでいます。今夜は鳴海泊まりでしょうか。

